

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称:

ラ・ヴィータ高松及びアネックスビル
エアコンの省エネ更新

排出削減事業者名: 宮地電機株式会社

排出削減事業共同実施者名: 株式会社 日本総合研究所

その他関連事業者名: 株式会社 相愛

その他関連事業者名: 株式会社 ファーストエスコ

目次

1 排出削減事業者の情報	2
2 排出削減事業概要	2
2.1 排出削減事業の名称	2
2.2 排出削減事業の目的	2
2.3 温室効果ガス排出量の削減方法	2
2.4 国内クレジット認証要件の確認	2
2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目	2
3 排出削減量の計画	3
3.1 プロジェクト開始日	3
3.2 モニタリング対象期間	3
4 温室効果ガス排出削減量	3
4.1 採用した排出削減方法論の情報	3
4.2 活動量	3
4.2.1 活動量・原単位	3
4.2.2 活動量の採用根拠	3
4.3 事業の範囲(バウンダリー)	3
5 モニタリング対象指標	4
6 モニタリング体制	4
6.2 モニタリング対象指標のQA/QC	4
7 排出削減量の計算	5
7.1 事業実施後排出量	5
7.2 ベースライン排出量	5
7.3 リークエージ排出量	5
7.4 温室効果ガス排出削減量	5
8 省エネルギー量	5

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	宮地電機株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	ラ・ヴィータ高松
住所	香川県高松市木太町4区2173
事業所名	ラ・ヴィータ アネックスビル
住所	高知県高知市本町3-3-1
排出削減事業共同実施者(国内クレジット保有予定者)	
排出削減事業共同実施者名	株式会社日本総合研究所
その他関連事業者(注)	
関連事業者名	株式会社相愛
関連事業者名	株式会社ファーストエスコ

(注)その他関連事業者とは、排出削減事業共同実施者とは別に、排出削減に寄与する設備機器の生産・販売者、国内クレジットの創出コストの低減を図る事業の集約を行う者等をいう。

2 排出削減事業概要

2.1 排出削減事業の名称

排出削減事業の名称：ラ・ヴィータ高松及びアネックスビル エアコン省エネ更新

2.2 排出削減事業の目的

事務所ビル用のパッケージ空調を、建物の構造等を考慮しつつ、高効率型のアエアコンに更新し、省エネルギーを図るものである。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

既存のアエアコンを、高効率のインバータタイプ機種に更新し、アネックスビルに関しては、特に吹き出し口が4方向カセット形の機種を選択することにより空調効率を向上させ、消費電力量を削減して、CO2排出量を削減する。

2.4 国内クレジット認証要件の方法

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものが	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画4項に沿って記載(計画から変更あった場合は、実際の開始日に変更して記載)。

2008年9月14日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2008年9月14日 ～ 2009年12月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
004	空調設備の更新

4.2 活動量

適用する排出削減方法論について、活動量を用いている場合に記載する。

4.2.1 活動量・原単位

対象	活動量	原単位
ベースラインエネルギー使用量	延床面積	事業実施前電力使用量
		延床面積

4.2.2 活動量の採用根拠

排出削減事業の対象設備である空調設備においては、ビルの各事務所の空調として稼動している。本事業により空調設備は高効率のものに更新されるが、運用自体は変更されないため、延床面積が最も適切であると考えます。

4.3 事業の範囲(バウンダリー)

本事業のバウンダリーは、ラ・ヴィータ高松(2F～4F)及びラ・ヴィータアネックスビル(2F～8F)の空調設備である。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合)変更理由
ELBefore''	排出削減実施前の年間電力使用量	kWh/年	175,833.00	電力会社からの請求書	
ELpj'	排出削減実施後の年間電力使用量	kWh/年	126,056.00	電力会社からの請求書	
CF _{electricity}	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	0.0000915	デフォルト値	
α_{BL}	延床面積	m ²	1526.51	建築完成書と変更が無い事	
β_{pj}	延床面積	m ²	1526.51	建築完成書と変更が無い事	
ELBefore''	排出削減実施前の空調設備以外の電力使用量	kWh/年	107,000	設備負荷の変動がないことを確認	
ELpj''	排出削減実施後の空調設備以外の電力使用量	kWh/年	107,000	設備負荷の変動がないことを確認	

6 モニタリング対象指標

6.2 モニタリング対象指標のQA/QC

データの種類	QA/QC手順(該当手順の無い場合、その理由を記載すること)
活動量	
排出削減実施後の年間電力使用量	月1回空調設備以外の電力使用設備について、運用基準の実態変化が無いか確認する
電力のCO2排出係数	該当数値の開示データを確認し、採用している数値の確認を行う
単位発熱量	
購入電力の単位発熱量	該当資料を確認し、採用している数値の確認する
排出係数	
購入電力の炭素排出係数	該当資料を確認し、採用している数値の確認する

7 排出削減の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

7.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2排出量
24,720 kWh		0.0000915[t/kWh]	8.29 t-CO2
EMPJ= kWh × 0.0000915 × 44 ÷ 12			

7.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2排出量
89,291 kWh		0.0000915[t/kWh]	29.96 t-CO2
EMBL= kWh × 0.0000915 × 44 ÷ 12			

7.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2排出量
LE			該当なし

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EMBL	29.96 t-CO2
事業実施後排出量 (7.1)	EMpj	8.29 t-CO2
リークージ排出量 (7.3)	LE	—
温室効果ガス排出削減量	ER	21.67 t-CO2

8 省エネルギー量

原油換算(kL)		
ベースライン(①)	実績(②)	ベースライン-実績(①-②)
58.7	42.1	16.6